



知事選投票日は7月5日に決定

自民党は 坂本参院議員を

この度の県知事候補の選考にあたっては、現職の石川嘉延知事が本年3月、5期目の出馬を辞退されてより自民党県議団の中にあつては、「脱官僚」「民間」を基調に幅広く後継者を募つてまいりました。

紆余曲折の経過の末、嘗て静岡県の副知事を務められた坂本氏が、5月30日、正式に自民党県連の「推薦候補」となりました。

しかし、一方では水面下での知事選擁立の動きも終局したものだと思つていた矢先(5月31日)、静岡新聞には驚くべき「新たな動き」が掲載されていきました。即ち民主党を中心として静岡文化芸術大学の川勝平太学長の擁立が現実のものとなつてきたのであります。石川知事の「三顧の礼」で学長に就任した川勝氏の力量は、政治的には全くの未知数ではありませんが、川勝氏の立候補が決まれば坂本、海野、川勝の三氏による巴戦は昭和49年の「山本

敬三郎・永原稔」の両氏による激戦以来でありましょう。

もとより自民党も背水の陣をもって戦わねばなりません。

今や、大阪の橋下知事を筆頭として、全国知事会ではこれまでの地方掌握の手法に反旗を翻すところとなつたのであります。まさに時代は大きな転換の時を迎えたのであり、本県も新たな発想が求められるところでもあります。

開港迫りながらも 苦悩の連続

まさか、富士山静岡空港の建設がこの「どん詰り」に至つて、空港滑走路の短縮、開港延期という重大局面を迎えようとは夢想だにしませんでした。

測量時の小さなミスから重大事に至り、県民の厳しい批判を浴びながらも、愈々、6月4日の開港日を目前としたところでです。

処がここにきて「弱り目に祟り目」の諺

通り、インフルエンザが大流行、しかも新聞・テレビによる一大キャンペーンに触発され、計画されていた航空機のツアーが相次いでキャンセル、開港を祝した一番機ですらその利用は淋しくなるばかりであります。

そんな状況下、私が殊に心配することは、2月の当初議会で上程され、可決された静岡―福岡便に関わる搭乗率保証についてであります。

1日3便予定の福岡便は定員406人、その7割即ち284人の乗客が無ければ1人につき15,800円を「日本航空」に支払う、言い換えれば日航の赤字分については静岡県が賠償するという、自由経済社会では考えにくい「搭乗率保証」が現実のものとなりますのであります。

今や日本の航空業界は不幸にして暗雲漂う真つ只中にあります。しかし1,900億円という莫大な県費を投じての「夢の事業」であれば、わが国経済の早期の立ち直りを信じ、富士山静岡空港を如何に本県の新たな「飛躍台」とするのかが、新しい県知事の手腕に期待するところ大であります。

安西学区を探る② 末広町・若松町・八千代町は瑞祥地名

その昔、梅が島や玉川の山間地区から流れ出た「安倍川の流れ」は宮ヶ崎に至り、ここから恰も浅間神社を巻くように方向転換、「北川」と称した川となつて臨濟寺方面に流れ、ここから低地である麻機沼方面に蛇行し、巴川に注いでいたのです。

1603年、幕府を開いた家康も、2年後にはその將軍職を秀忠に譲り、自らは駿府に隠居、亡くなるまでの10年余り所謂「大御所」として天下に君臨していました。その大御所の第一の仕事が安倍川の大改修でした。

井宮の妙見さんから緑ヶ丘までの延長4km、幅20m、高さ5mの土手を築き、もつて安倍川の流れを清沢・大川方面から流れ出る藁科川と合流させ海に注ぐ方式をとつたのでした。

この薩摩土手（現在のさつま通り）の築造以来、北番町は府中の北端となり、その北側に当る地域は井宮村・安西村と呼ばれる田園地帯として人家の薄い地域でした。

明治に入つて茶業や製材業の一層の振興により、この地域も急激な発展をみるのであります。

末広町・若松町・八千代町の名前

は典型的な* 瑞祥地名であることは漢字の意味合いからも一目瞭然でしょう。町の新設に伴つて将来のいやさかを願つて町民が名付けました。神明町の町名はご当地の中心にある神明宮から名付けられました。

次に水道町は昔からこの地区に市中への用水の取り入れ口があり、このため以前からの呼称を継承した結果であります。

片羽町はもともと浅間神社の社領でしたが、慶長の町割りで賤機山側に町家の建設は許可されなかつたことから、片側、片端を意味する名前となりました。

北番町の由来

のようになっています。

- ① 君が代は千代に八千代にさざれ石の巖となりて苔のむすまでうごきなく常盤かきほにかぎりもあらじ
- ② 君が代は千尋の底のさざれ石の鶴のゐる磯とあらはるゝまでかぎりなき御世の栄をほぎたてまつる

一寸一言

私の雑記帳から

国歌『君が代』には

2番もあります。

既に聞いて久しい処ですが、国歌

明治14年発行の「小学唱歌初編」は次

番町とは一般に武家ないし足輕の屋敷が置かれた地域をいい、大御所時代（寛永年間）に安西通りを境に南と北に番町を作つたのでした。そこから北番町が誕生したのであります。

* 瑞祥地名とは縁起の良いもの、イメージの良いものにあやかつて命名された地名

成功裡に終わった「文化祭」

5月28日の「天野進吾と創る文化祭」はお陰様をもちまして、成功裡に終了できました。

「箏曲」に始まり、「ようそろ」や「琉神」の太鼓が続き、更には千葉の菅谷氏ご夫妻による情緒ある「マジック」などを楽しんでいただきました。

『天野進吾』の歴史講座

町内会の集会、サークル活動などに天野進吾を呼んでみませんか。大変ありがたいことにこのSHINGO-SCOPEの郷土史が好評を頂いております。どうぞ、お気軽にお声掛けください。